職場・地域に繰展ぐ

交流情宣再びはじまる

緊急態勢確立の一環としてはじめられた交流情宣は、すでに四山・三川両支部をおわり、三鉱連臨時大会のため一時中断していたが、十二月二日港務支部、つづいて製作、宮浦、本所をつづけていく。各支部とも支部長、本部からは組合長以下執行部が連日おそくまで職場、地域の情宣に駆けずりまわつているが、緊急事態に処する態勢は急テンポにもりあがつている。

質問活発に飛ぶ

執行部総力あげて情宣に立上つた緊急事態にのぞんで、本部を含めて各支部長が参加する交流情宣が計画されたのは十一月に入つてからであつた。まず、四山支部の十一月十二日を皮切りにこの情宣ははじめられたが、いつも同じ支部の執行部から聞く情宣と違つて、本部や他支部の支部長からきく情宣は、同じ情宣でも新味がくわわり熱心に皆が耳を傾けた。

執行部では職場はいうにおよばず地域も対象にこの情宣スケジュールを組み、夜おそくまで連日情宣にかけたてられ、くたくたの態である。

途中十一月下旬に三鉱連の臨時大会がひらかれたため、情宣は一時中止、大会では会社の企業整備案にたいして、さいごは首切りにつながるものだと決定して、全六山が一丸となつて闘うことを決意した。

大会終了ご新らしくスケジュールを組んで、緊急事態の説明や三鉱連大会の内容について交流情宣が十二月二日から再び港務支部を皮切りにはじめられた。

情宣にあてられた各会場では組合員も主婦も熱心に情宣にきき入り活発な質問がとぶところもある。だがやかましく騒がな所が多かつたどこの会場をのぞいても、みな事態はよくこれまでの情宣で認識しており、だからといつて悲壮な感じをうけるところはみじんもない。

自分たちの力ではね返す闘争を組もうと闘志はみなぎつているようである。

（上）昼休みを利用して製作支部で
（下）銀水社宅では主婦がつめかけた

中小炭鉱失業者などへ

大地評の助け合い運動すすむ

毎年おこなわれている年末年始の助け合い運動は、年を追うごとに全国的な救援運動に大きく発展している。資本主義社会のある限り生活困窮者は後を絶たず、いやかえつて激増しているありさまだが資本家どもとグルになつた政府はこの方面には一向温い手など差しのべようともしないありさまである。

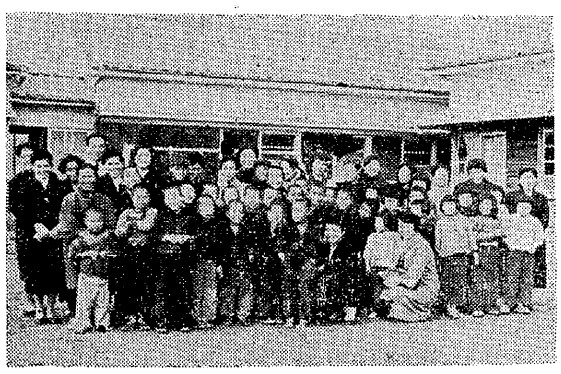
総評、炭労も今年の助け合い運動を呼びかけており、組合でも生活革命運動の一環として、廃品回収現金カンパの運動をおこすことになつた。

大地評ではことしのカンパ対象をとくに筑豊地帯の中小炭鉱で廃坑や休鉱になつたところの失業者にあてることとなつた。筑豊地帯ではこの失業者が急激に増えて、冬を迎え惨たんたる生活をしているのである。

大地評では昨年は一人当り二円の資金カンパを目標に運動をすすめたが、ことしは一人当り五円を目標に運動をすすめることとなつたこの集つたカンパのなかから、昨年は甘木山学園の不幸な子供たちにオルガン、ブランコを寄贈したがことしも何かの形にのこるような品物を寄贈することとしている。また、失業者の都市といわれる地元大牟田でも生活困窮者は多数おり、この人たちにもカンパの中からいくらかを救済資金にあてたいとかんがえられている。

孤児たちを慰問

新港主婦甘木山学園へ



港務主婦会新港分会ではいままで年一回づつ甘木山学園の孤児たちを慰問していたが、ことしも去る十一月三十日に分会主婦たち十名は、分会内の主婦たちがもちよつた衣類、雑誌、菓子など慰問品をドッサリ手土産に学園を慰問した。主婦たちが土産をもつて学園に入る姿をみて、グラウンドで遊びたわむれていた子供たちワッ！と大はしゃぎ。

この日主婦たちは別室にて主事さんから学園内の情況や、子供たちの日常のこと、運営での苦労などをきき、園長さんから挨拶をうけた。

炭鉱の主婦の方からはいつも慰問をうけて、とても感激していますと涙を流して喜び語る園長さんの言葉に、主婦も嬉い泣きしてハンカチをそつと眼にあてていた。

「金持は私の所には用はありません。みんな貧しい人が慰問にきてくれます。金持がきても一つも嬉しくはありません」と園長さんはたびかさなる主婦会の人たちの慰問に感謝しているようだつた。

このあと、増築された宿舎や食堂居間などを見学、親のない可愛そうな子供たちに優しい言葉をかけて、帰路についた。

日常運動の徹底

大牟田市 原水爆禁止 婦人大会開く

戦争に反対し平和な社会をつくるために、十二月五日午前十時から大牟田原水協主催の労働会館、市役所議事堂、職員会館、浄心寺など六会場で婦人だけの原水爆禁止大会がひらかれた。この大会には思想や党派のちがいをこえて、あらゆる層の婦人四百名が参加したなかでも、市中の女子高校生の参加はとくに人目をひいた。

〃原水爆禁止運動と他の平和運動〃〃原水爆禁止と被爆者救援対策〃〃原水爆禁止と婦人〃この三つのテーマのもとに三分科会、六分散会に分れて討議された。

原水爆禁止運動がすすんで行くにしたがつて、他の平和運動との関連がでてきて市か筋かでなかなか運営して行くのにむつかしい問題がおこつているが、この婦人大会では、他の平和運動は地域の婦人のなかで話合つて行くことにして原水爆禁止を中心にして話合い、勤評・警職法については、あまり触れていなかつた。

午前中は市原水協副会長挨拶、原水協事務局長の基調報告、九大理学部森田教授「原水爆被害のおそろしさについて」の講演、午後はロクロク式デイスカッションのあと、全体会議をおこなつた。ここでつぎの二つのことを大会は申合せ、午後三時三十分に終了した。

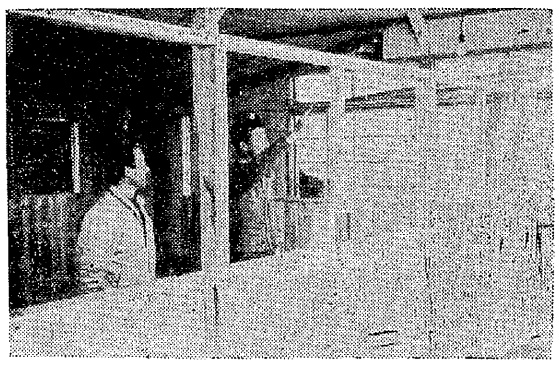
(1)地域や家庭のすみずみまで原水爆禁止運動を徹底させよう。

(2)被爆者救援のため積極的に運動する。

中旬ごろ開館

港務支部の図書館

懸案となつていた港務支部図書館が、いよいよこの十二月十五日から発足する予定となり、いま図書館の完成に工事がいそがれている場所は組合事務所横の会議室、室の三方を図書ダナにいま改装中である。港務所のいままでの図書館は本館寮にあつたが、新しく組合運営の図書館が考えられ、実現のためいままで延びていたものである。蔵書は約千五百冊位、利用開始とともにこんごは逐次整備、充実されることとなつている。また、港務所はヤマの現場とちがつて、職場が広い範囲に散在しているため職場巡回図書も計画されており、利用者の利便がはかられることとなつた。（写真は完成を急ぐ港務支部の図書館）



クリスマス より映画観賞を

馬渡子供会廃品も回収

いよいよ十二月にはいつた。子供たちはお正月を指折り数えて楽しみにしているが、冬休み、クリスマスと子供たちの小さな胸は一日々々とふくらんでいる。

宮浦支部馬渡分会の子供たちも例年クリスマスを祝い、楽しい夕べを過ごしていたが、ことしはクリスマスを中止して、映画観賞会に変更することとした。

このクリスマス中止は、子供会で話合つた結果の結論で、自分たちの手できめたもの。その理由として(1)クリスマスをやると、学芸会などをやるため、何日でも練習しなければならないから、勉強がされない。とくに冬休みに入る前だから学期末試験があり非常に困る

(2)この夏に子供会で世論調査をやつたが、その中で映画観賞会は大へんためになる。冬休みにもぜひやつてもらいたい、ということになつており、クリスマス行事として映画観賞をやりたい。

ということであつた。

なお、各家庭とも年末に大掃除を実施するがそのとき多くの廃品がいつもでている。今年は子供会でその廃品をもらつて、子供会の行事資金としようということになり、分会の各家庭に呼びかけている。十二月七日にボロ回収の予定であるが、ここで集まつたボロを換金し、半額をユニホームの基金の一部にすることとし、残りの半額は、冬休みの映画観賞会の資金にあてることにしている。

眼の位置

組織強化のため、職場や地域で交流情宣がさかんに行われている。

ある社宅で、ある執行委員が主婦を集めて座談会中、さかんに奥さんが横眼を使うので、自惚れ気を起した委員が〃オレはそんなにヨカ男かな？〃と視線を奥さんの目の向いているところにまわせば、子供さんが小遣銭をセビリにきているので「帰りなさい！帰りなさい！」の眼の合図であつたことには恐れいつたといつていた。

もぐら談義

三井鉱山丸出航

こんど三井鉱山では重役の更迭や部課長の移動、昇格が行われた。これについて組合員の見方はいろいろあるが、その代表的なものを二つ三つ紹介する。

その一 次長が所長へ、課長が部長にそれぞれ出世をした。よく考えてみると、組合とケンカするたびに会社幹部は出世しているようで、まつたくストライキも捨てたものじゃない、結構なことだ。

その二 組合の交渉窓口である労働課の課長が部長に出世した「交渉ごとがうまく行くやろか」との話に「教育部長、厚生部長と同じ部長じゃ、これで今後の交渉は〃労使対等〃じゃないか」

その三 重役五名が首切り闘争をおこすことなく辞めていつたが、同じく五名が重役に昇格したので一〇〇％の補充採用というわけ。

相手がいるぞ

いよいよ正月が近まつたが、期末手当はちつとも進展しない

大牟田の保守系の大ボス・小ボスが、もつともらしく地方の〃ご用新聞に〃期末手当を早くだしてもらうよう陳情する〃などといつているが、交渉相手の労働組合のあり方をまつたく頭から否定している。

昨年も保守の某代議士が、交渉が妥結したのも知らずに、妥結後〃申入れした〃と新聞に報告し、バケの皮をはがれたこともある。

わが家の家計簿に見事特選

月見ガ丘の西田秀子さん

第五回NHK「わが家の家計簿体験記」に主婦会宮浦支部月見ガ丘分会の西田秀子さんが特選として入選した。

これはNHKが貯蓄増強中央委員会と各都道府県貯蓄推進委員会共催で毎年募集しているものだが、ことしは全国からの応募が二千三百五十二編、うち特選三編、秀作二編、佳作五十編がきまつたものこの〃わが家の家計簿〃には昨年も白井分会の主婦が佳作に選ばれている。こんど特選に選ばれた西田さんは、地域でも主婦会の分会長として活躍している。

沿道に鉄脚競う

四山駅伝競走終る

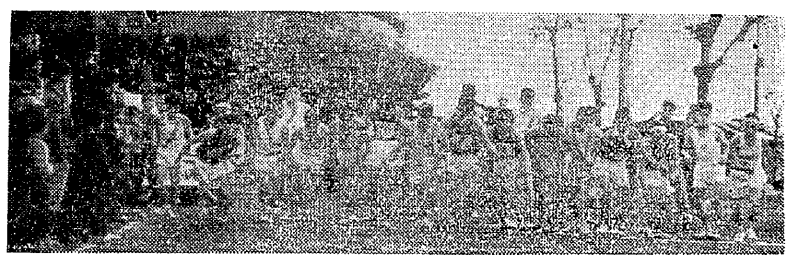
十二月に入りいよいよ冬季スポーツの花形駅伝競走のシーズンとなつた。四山支部では十一月三十日はやくも他支部のトップを切つて分会対抗駅伝競走を実施した。ことしは昨年にくらべて参加チームは二チームへり、二十二チーム恒例のとおり執行部もチームを編成してレースに参加した。

全コース二七・七キロ、四山鉱人事前を振出しに荒尾市役所前―旧郵便局前―産業道路―市電ガード―赤田池―下金山まで行き折返しのコースである。前日夜から降りだした雨が当日朝になつても小雨となつて降りつづき、競技が不可能かと心配されたが、夜が明けるとともに雨もやみ、カラリと晴れた上天気に変つてきた。

午前十一時キツカリ、二十二人の選手たちは一団となつて人事前のスタートラインを飛びだし、四山社宅はいうにおよばず、各分会からぞくぞくかけつけた応援団の黒山のような人だかりと、声援の下に炭鉱マンの鉄脚を競つた。

荒尾市縦断のレースだけに、沿道の市民、農村の人たちも手を振り声をはげまして声援してくれる。各分会はえりぬきの選手を繰り出して優勝をねらつたが、若手の多いところもあるというそれぞれの悩みをかかえながらも、全コースを無事に走破、物凄い声援と熱のあるレースを展開して、この日の駅伝競走は無事に幕を閉じた。

優勝 開発機械、二位ホーベル八方、三位琴号、四位五六〇米、五位職場



歌の職場巡回

本所コーラスでは、日本のうたごえに女子二名をおくつたが、出発にさきだち、二名の職場である七夕分院、天領本院にそれぞれ十二月一日、二日と職場巡回を行つたなお参加者の帰山後、各職場を廻り歌唱指導を行う予定である。